

回四日 常陸名津造酒大夫

初喜美大夫 後曲豊名賀造酒大夫

初名喜美大夫と云い文化三年正月市村屋以組太夫の代り出さ。文化五年正月河原崎屋以伊勢太夫のナカレと勤め六月森田屋以ワキと譲りし。文化十年二月市村屋以小文字太夫を名家元のナカレに番附面記入ありし。小文字兼西人欠勤せしめ娘を太夫場と勤め常其の後文政元年十月中村屋にて造木大夫と改め常更に翌三年七月四日自造酒大夫となり常宗元文字大夫欠勤の爲夕子と譲り譲りしワキ格とて宗元と出勤あり、宗元欠勤の折以兼太夫と共に太夫場を譲り居たり。文政九年十月宗元と隣を生い長内太夫、三柱の松屋、藤次等と常陸名津と去り常其の十年正月河原崎屋には曲豊名賀を再興して勤当の上りしと譲りたり、其の後常陸名津に後継し此のより如く天保三年七月二日自文賀とつすそ披露を而國中村屋平吉方に催せる。百常陸名津に記せり

回三日 常陸名津長内大夫 (一) 文政五

初喜美太夫

宗太夫文化六年頃より遠名中に入り文化七年八月市村屋にて三世長内太夫と改めナカレと譲り常其の後小文字太夫のナカレと勤め去り文化十三年正月三月の河原崎屋に小文字のワキを譲り、後文政三年七月河原崎屋に和歌太夫のワキを譲りし後番附に昇之が、銀座に住み仕立をいふにかりと云う、文政五年三月五日歿す常

回 常陸名津 秀太夫

文化六年一月市村屋に始りて控り中に出さ常其の文化八年六月子役芝居結城屋に小文字太夫のナカレに出候、後文化十年十一月市村屋以小文字太夫の控りて去、十三年正月河原崎屋に始りて小文字太夫のナカレと譲り、其の後文政五年頃まで数度去り候せり

61

回常磐津 出羽大夫

文政二年正月 中村彦以 小文字大夫ヲナカレ以 始メト出勤 其ノ後出勤可
出羽大夫ノ名ニ 以前には控ノ中ニ有 何人ノ改名カ?

62

回常磐津 千賀大夫

文政二年正月 河原崎彦以 和勢大夫ヲナカレ 文政五年七月 河原崎彦以
小文字大夫ヲナカレ

63

回常磐津 鳴内大夫

此ノ國大夫ノ項ニ有

64

回常磐津 國大夫

初ノ初 鳴内大夫、三吾政大夫、小文大夫
國大夫 松五斎

文化二年十月 中村彦に始メ 綱大夫のワキに出勤(常) 文化四年十一月
中村彦に 小文字大夫ヲナカレ 文政三年三月 河原崎彦以 兼大夫のワキ
翌四年三月 中村彦に 小文字大夫ヲナカレを勤(常) 同年八月 破内(常) 常
文政七年 歸参一と 八月 市村彦以 ワキを勤(常) 又政八年 十一月 中村彦
に 二代目政大夫となり(常) 翌日 兼大夫ヲ代理に ナカレを勤(常) 後引續き
出勤あり、三吾若大夫に 次す 同人之 出勤あり 時は 家元の ワキを請ふん
天保六年 八月 森田彦以 小文大夫と 改メ 三吾小文字大夫(四世 小文字大夫)の
ナカレに 出せ 翌七年 十一月 市村彦以 七ワキを請ふと なる 翌年 松五斎となり
常磐津種に 天保六年 四月 中村彦 意者ありの時 國大夫と 改メ 且 總番附に
記載 然し 同年 十一月 中村彦 國ノ 扉上り 總番附に 小文大夫と 改メ 且
記載あり 案す 正しく 國大夫と 云い 更に 小文大夫と 云い も あり
。文政八年 正月 吉原綱 是に 鳴内大夫の 名あり

65 口常盤津 滝太夫

文政三年六月 中村屋に綱太夫(四世常太夫)がナカレ

66 口常盤津 喜野太夫

後に 喜敏太夫

文政三年四月 河原崎屋に和歌太夫のナカレ(夫、太夫の名の連名中に見之
比、この時の始り人の改名を云) 十月 同屋に小文字太夫のナカレ(此、
太夫と一曰替、その後小文字のナカレとて数次出勤あり、文政八年三月 河
原崎屋に小文字太夫のウキ、文政九年二月 河原崎屋のナカレに出勤、この時
繁太夫とす。

67 口常盤津 駒太夫

文政三年七月 河原崎屋に和歌太夫のナカレに去て後、文政五年九月 市村屋に
小文字太夫のナカレに、此、東より、出勤あり、天保六年七月 及び九月、
筑城屋に小文字のウキと勤、潤を語りとする、天保十年三月 中村屋
出勤、後芝居に去す。

68 口常盤津 豊太夫

文政三年 十月中村屋に三目造酒太夫のナカレ

69 口常盤津 志知太夫

文政三年正月 辰松屋の園、藤へ多てと出勤、翌三年十一月 白玉川屋へ
小文字のナカレに去す、その後出勤なし

70
回 常船名津園太夫

文政五年三月中村屋に初々を和歌大夫のワキと謹う(常)、文政六年
正月森田屋に小文字大夫のナカレ、同八年八月結城屋に小文字大夫の
ナカレを勤め外その名ナシ
(三)人ニ在喜代大夫と云う更に常船太夫と知り一人か？信考を指す

71
回 三六目常船名津長内大夫

初め只田美大夫
文政八年十一月中村屋に控の中に出る、一、翌九年正月、中村屋に三吉
長内大夫と改名、早政大夫病氣にて代り勤め、三番目に出勤、文政
九年十一月造酒大夫等と常船名津と云う、同十年豊名賀と、
三番目に出勤

72
回 常船名津千歳太夫

文政十一年正月、中村屋に小文字大夫(四世家元)のナカレ

73
回 常船名津祖賀太夫
回 常船名津伊勢太夫

文政十二年十一月中村屋に小文字大夫(四世家元)のナカレを勤め、
天保三年三月中村屋にて三代目伊勢大夫と改名し和歌大夫病氣
欠勤の故に出勤(常)、天保四年正月結城屋に小文字大夫のナカレ
同年七月及び八月河原崎屋にワキを勤む、その後、小文字に接し
ナカレ或はワキを勤め、天保八年正月、中村屋興行水信世に出勤
ナカレ